

税収71.1兆円 剰余金2.6兆円

22年度 使い残し「不用額」最多

財務省は3日、2022年度の国の一般会計の税収が71兆1373億円で、3年連続で過去最高だったと発表した。前年度より約4兆円増え、70兆円台に乗るのは初め

て。過去最高だった消費税のほか、所得税、法人税を含めた主要な三つの税収がいずれも伸びた。▼経済面へ速い景気実感

度から1兆円以上増えて23兆792億円。19年10月に税率が10%に上がった影響で20年度に初めて所得税を上回り、22年度はエネルギー価格の高騰に円安も重なり、輸入関

連の消費税収が増えたという。

所得税は22兆5216億円、法人税は14兆9397億円で、それぞれ前年度より1兆円余り増えた。所得税は賃上げや、大企業から株主への配当増などが要因とみられる。法人税は納税主体である大企業を中心に好調な業績が反映された。

一方、同日発表した22年度の決算概要（見込み）では、決算剰余金が2兆6294億円だった。税収が予想以上に伸びたほか、予算計上したものの使わなかった「不用額」が過去最大の11兆3084億円にのぼり、新規の国債発行を、前年度より4兆円多い12兆円減らした。それでも剰余金は前年度より倍近く増えた。

過去10年間の平均は1・4兆円で、半分は財政法に基づいて国債の返済にあてるが、政府は残り半分を防衛費増額の財源に使う考え。想定よりも剰余金が6千億円ほど増え、防衛増税の先送りを求める声が高まりそう

だ。22年度の歳出は決算ベースで132兆円となる見通し。税収が増えても赤字国債に頼る構図は変わっていない。（松山尚幹）